

おおよと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成21(2009)年

9月号

通巻 469号
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

発行日 平成21年9月23日
発行所 大倭出版局
〒631 0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44 0015
印刷 大倭印刷製
定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
振替口座 01050 6 67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



信州乗鞍高原にて 奈良県生駒市 大津 美代子さん絵

平成4(1992)年8月13日 東光大祭及び祖霊祭法話より(下)

幸せになる近道——霊界人と交流する

法主 矢追 日聖 (満80歳)

どんな修行をするか

いつも申しますように、宗教というのは人間の精神的向上を図って行く修行の場なんです。先ず、腹の立てない人間になれるよう努力してほしい。それと人に対してあの好きやこの人嫌いやという心を持ってほしくないんです。誰が来てもいいというような心境になつてほしいねん。

私は、今日まで何十年も色んな人と接してきています。真面目な人も欲深い人も、非行少年もある。あるいは病気になるれば、助けてくれと言つて来る人も沢山いる。神さん、めつたに助けはらへんねけど。まあ色んな人と会つてきていますけれども、この人好きやからうまくいくようにしてやろうとか、この人嫌いやからいい加減にしとけとかね、そんなえこひいきはしていません。どんな方が見えても私の気持ちの中では同じに扱つてます。出来るだけ皆と親しくしたいと思つてますしね。

けれどね、難儀なことに私は八十一歳(数え)ですやろ。ちよつと耳が遠いのと、目が両方とも白内障で水晶体を抜いてますねん。だから目は見えにくいし、耳は聞こえにくい。それも左よりも右の方が聞こえにくい。ところがね、大体悩みの相談というのは、小さい声で言わはりますねん。初め「はいはい」と返事をしているけれど、やっぱりはつきり聞かなあかんから、「ちよつと、そばに来て言

うてくれるか」と言わなあかんとが、不便なところがありません。そんな相談というのは女の人がほとんどやけど、これ色気と違うねんで。ほんまのところ、色気も無くなってるんです。(笑)

どの宗教でもいい

それから次には、優越感で天狗になるとか、劣等感を持つというような問題。これがまあ大体、仲を悪くする元やと思う。

同じように一つの仕事をしても、先頭に立つて仕事してくれる人を恨んだり、また自分が出来なかつたら出来る人を妬んだりするんですね。だから昔から、「高木は風に折られる」とか、「出る杭は打たれる」とかいう言葉があるんやな。私はそんな余計なことを考えないで、何もかまうこといらん、自分の思うことをやったらいいと思うんやけどな。

皆、お互いに仲良くしていく。その根本は、今ここでも私とあなた達が、一緒に同じ空気を吸って生かしてもらっているというところにあるんです。その事を本当に考えたら、喧嘩したり憎んだり、そんな気持ちが出てこないはずなんですよ。

皆仲良うして協力し、そして助け合っている人間になる、それが一番大事やと思う。

私が着ている物一つでも私が作ったんじゃないんです。私を買ったんともちがう。誰かが持って来てくれるはってんけど、やっぱり生地を織って染めて、また縫う人と色んな職人さんの手をくぐって出来上がってきています。着物一つでもそんなんですから、社会の全てが色んな人の手をお互いにくぐっているんですよ。それに気が付くような心になつてきたら喧嘩は起こらないと思うんです。そういうような社会が、宗教的な世界なんです。

大倭教でなくとも、他のどの宗教でもいい。どの宗教も結論は宇宙の真理を説いておるんやから、表現の仕方、説明の仕方が変わるだけで、結局期するところは皆同じなんです。

天理教の信者はこうだ、仏教信者はこうだ、大倭教の信者はこうだというようになってくると、ええことないねん。かえって、社会に害悪を流す場合が多いんです。

例えば、ご利益主義から入るような世間の宗教団体なんかで、先ず差別感を教えるのが見受けられます。「あなたはこの宗教に入つて幸せや。よその宗教に入っている人は助からへん、救われへん、不幸や」と言つて、自分の宗教に優越感を持つように信者に教えていくんです。これは最もいけない。

だから私は、大倭には信者を認めておりません。何も信者でなくても、人間的にさえ修養してもらつたらそれでいいんやから、大倭にはどんな方がお見えになつてもかまわない。お互いに人間的に修練していく場が、大倭の宗教の根本だと私は思ふんです。

先祖供養をするわけ

太加天腹(タカマハラ)というのは、大きくも、小さくも、どのようなでも考えることができる原理なんです。

「太」はプラス、「加」はマイナスという相対性の原理なんです。例えばここに座つてはる皆さんでも、男の人がおるし女の人もおる。夜があつたら昼がある。雨もあれば晴れがあるというように、相対的になってます。宇宙の全ての物が、相対即一体に仕組まれてるんです。

そうしますと、自分という人間個人で見れば、

形の持つておる肉体と形の持たない心と、この二つが一つということになります。今日は東光大祭やから行こかと、目に見えない心が先にあつて、肉体が後から付いて来ているはずなんです。

だから、肉体の持つておる人間の世界があれば、肉体の持たない人間の世界がある、目には見えないけども別の世界があるということが、理屈でも分かると思つてます。

「太」と「加」が、接触してる所が「腹」です。男と女が接触する所が腹であつて、それによつて子供が生まれる。だからそれを大きく言えば宇宙創設の原理になるんです。

肉体を持つておる我々人間と、また肉体を持たない裏の世界の人間とは、相対的な関係になってます。だから霊界の人達と、現界の我々とはお互い交流することによつて幸せな生活ができる。そういうように宇宙の仕組みがなつておるんです。その原理から先祖供養したり、神社で人格神を祀るんです。人格神は、昔に人間として生まれて、ある一定の時を過ぎて死んだ人の靈魂なんです。宇宙の生命体である加美さんとは違います。

人格霊も昔は飯食つて生きてはつたんやからね、霊界人と現界人とが交流するために、やはり食べ物をおえます。海・山・川・沼にある物などを「どうぞお上がり」と供えて、まあ仲良うしましょうというのが祭典ですわね。だからこれは、宗教の行事とは違いますね。生きてる人間と死んだ人間との交流の場なんです。霊界人はまあ食べんから減らへん。(笑)

けれども、供えた物から出ている気というのがあります。その気だけ吸うてはるわけやねん。その時にね、祭壇が皆さんの前にあるからというて、祭壇の向こうに神さんが居てはると思つたら大間違いやねんで。今日供養したご先祖さん達も、皆

ここに来てくれるけれど、全部あんな達に付いてお
ります。だから、お供えもあんな達の居る方に向
けてあるんですよ。そういうようなことを、よう
知っておいてほしいと思います。

頼むのでなく仲良くする神さん

あんな達、天神さんというのを知ってるやろ。
あれは、菅原道真さんという人間やってん。偉い
学者で出世してはったのが、京都から九州の大宰
府に流されてしまった。腹立てて死んだんやな。
そうしたら悪魔になって出て来はったんや、ほん
まのそこ。宮中に雷を落として火事になり、天
皇とか公家を病気にしたりね。

そういう呪いの心を鎮めるために祀ることを、
御霊信仰と言います。菅原道真の怨霊を祀ってい
るのが天神さんなんです。時の帝が一つの国に
一つ作らせたから全国にあります。大阪の天満に
も天神さんあるわな。天神祭と言って派手にやっ
てるけど、その神さんそのものは実は怨霊ですよ。
そんな神さんにやで、絵馬を書いて入学試験に合
格させて下さいと、一生懸命拜んだかてご利益く
れはるやろか。考えてみい。(笑)

それよりも、苦しんではんねから、何か一つ物
でも供えて、「天神さん、お互いに仲良くしまし
よう」と、握手するような心で拜んであげたらえ
えんや。自分のことを頼んだって、めったに聞か
はらへん。

天神祭は、生きてる人間と天神さんとが交流
する場なんです。天神さんは喜んで心が慰められ
てね、今までの恨み辛みの心が段々無くなってい
きます。それが神祭りなんです。ところが日本
人は、そういうような区別が全然つかへん。神社
に祀られてる人やつたら何でも偉い神さんだと思

うと間違いや。

私は天神さんに行ったら、「お気の毒に。けど、
あんなまり恨んだらあかんで」と説教してやりませ
んで。その方が相手は喜びはるからね。(笑)

政治関係の争いから怨み辛みで死んだり殺され
たりした人の靈魂を祀っている、いわゆる御霊信
仰の神社が日本全国に沢山あるんですよ。そんな
所で、賽銭放り投げてね、「何々して下さい」「病
気治して下さい」とか拜んだかて、そら「何言っ
とんのや、こっちの方が苦しいんや」と言わはり
ますわ。(笑)

そういうところを見分けて信仰してほしい。何
度も言うように、神社に祀られている人格霊は、
頼む神さんではなく仲良くする神さんやで。

日本語で「カミ」というのは、「上」のことな
んです。先に死んでる人は、「上」におるからカ
ミさん。そこに神という漢字を当てはめてるんで
す。家の中を治めてるのは女の人やし、男よりも
女の方が偉いから、おカミさんと言うねん。(笑)

宗教と心霊治療を区別する

大倭の神さんを信仰して病気が治りましたと言
う人が沢山います。そんな話を聞いたら、自分も
治してもらおうと言う人があるんやろと思う。信
仰の窓口はそれでもよしい。けれども、ちよつ
と分かってきたら、そんな心は取り去ってほし
いです。

邪霊にぶつかって精神病で困っているような人
やつたら、じきに治りますわ。それは神さんが治
したんでも仏さんが治したのでも何でも無い、私
が治しているんです。心霊治療と言いますか、そ
ういう治療をする資格を私持っていることにな
るんです。やっぱり頼みに来られたらね、可哀想

やし、いつペン見てあげるわなと言って、ちよち
よつとすると、霊的障害の人やつたら何か知らん
けど治るんや。

治療した後、「病気を治してくれと神さん拜
むような信仰は邪教やで。ご利益信仰はあかんで」と
説明してあげるんだけれども、やっぱり大倭の
神さんはよう病気を治してくれはるとか聞いて来る
人が多いんですよ。そういうことを求めている人
が沢山いるんやな。だから、新興宗教に引掛かっ
てだまされるということも出てくるんやと思うね。
医療、医学によって治すのがお医者さん。お医
者さんでも国家試験を通らないと医者になられへ
んやろ、それと一緒に。私の場合は霊界人が認め
ているわけやな。

病気は医者に行ったらいいんです。そのために
お医者さんもあるし、病院もあるんや。神さんが
何の病気で治すんやったら、うちでも大倭病院
みたいなもの作りませんで。(笑)

そういうことなんですけど、医者でも分からな
い原因不明な病気の中には、まあ霊障害というよ
うな、邪霊とか靈魂の障りによって病気になるこ
とがあるんですね。

例えば、昔の偉い権力者のお墓があつたとしま
す。そんなことを知らないで、そこが宅地造成さ
れて新しい家に入ったところ、病気になる、やれ
事故おこるといことが続く。最近はこのだけど
んどん開発するから、そんな家が沢山あるんでき
よ。

お墓は、いわば靈魂の棲み家ですわね。靈魂は
物体と違うから、人間が肉体を持って住まいて
いるのとは違うけれども、やはり自分の心の拠り
どころになっています。だから「無断で占領しよ
つて、このガキめ!」というような心は、人間と
同じです。トラックがひっくり返って怪我したと

か、次から次に病気になるのが、ぱーんとやられることが起こり得るんです。

我々人間の方が後から住むんやから、ちよつとお社でも作ってお祀りするといいいんですね。そうして先住者の心を慰め、「同じ家族になりましょう」というような、大らかな気持ちで、一緒に生活するというのが理想的なんですよ。

ここでも、そういう意味で草香姫さんをお祀りしてあるんです(向かって左側の安宿姫と並んで)。「この人は私がここに入った時にね、一週間程私の所へ夜な夜な通って来はった二十七、八歳のお姫さんです。私は、どこのお姫さんか分からへんかったんやけど、私の母親が非常に靈的感應の強い人なので見てもらつと、これが楊貴妃の娘さんらしい。昔この場所にお寺があつた時代に、光明皇后さんが連れて来はったということやねん。中国の唐の時代、玄宗皇帝のお妃として有名な人やけど、楊貴妃にこんな子供いたのかいなかつたのか私は分からへん。どこにも書いてないと思つねん。けれども現実には毎晩出て来てん。ここで住まいをして、ここで死んでいった人らしい。だから、ここにお祀りしてます。

以前、ここで野草塾をした時もね、私が話したのは、おおかた三分の程は靈的な話やねん。野草塾というような集まりでも、大倭でするところのは、やっぱりそんなことに関心があるのかなあと思つたしね。来た人の中にも、靈的障害のある人が割合多くいました。けれども、まあ時間が経つたら皆何とかなるやると、私は思つてあげてますねんけど。

自分の心が死後の世界になる

話があつちこつち飛んで無茶苦茶になつたけれ

ども、皆さんもその中で何かを悟つてもらたらええと思ひます。

身近なところでは皆、仏壇か何かで先祖さんを祀つてはると思ひます。だから、毎朝お茶でもご飯でもちよつとお供えして、そして心と心の交流することが一番よろしい。「南無妙法蓮華經」と言つたかて、「南無阿彌陀仏」と言つたかてかまへん。死んだ人にはお金は関係あらへん。それよりも食べる物を供えて、「どうぞ、おあがり」というような、こつちの心と先祖さんの心の交流の方が大事なんです。そんな意味で、「先祖さん達に對しては非常に大事にしてあげてほしい。

これは信仰でも何でもありません。肉体の持たない人間と、肉体の持つてる人間が仲良うすることなんです。それによつて、我々人間が幸せになつていくんです。

ご先祖さんにも心があるから、普段から仲良うしてたら頼まなくても助けてくれる。例えば、無意識にぱつとハンドルを持つ手が動いて交通事故にならなかつたとか、落ちた飛行機に何かの事情で乗れんよつになつて助かつたという人があるでしょう。靈界人の仁義言つたらおかしいけれどね、恩返しするんや。犬でも餌をやつていたら、やっぱり家の番をするやろ。(笑)

格好だけ毎日供えといたらええわというのではあかんよ。毎日、朝起きた時きつちり「お早う」「どうぞ、おあがり」と、心と心の交流をしてもらたら、皆さん幸せになつて行くと思つてんです。般若心經に「色即是空」「空即是色」と説いてるように、超越した「空」の心になつてくれたら、現界からあちらの世界に行く時も良い世界に行きます。というても地獄や極楽があつてそこに入つて行くといふんじやないんです。生きている間の自分の心の世界が、死後の自分の世界にな

るんです。

人を騙したり悪いことしたりして金儲けばかり考えて死んだとしたら、その金で苦しむようになるねん。だからお互いに仲良うして、心の融和を図るようなことをして死んだら心配いらん。生きてる時の心の世界が死後の世界で出てくるということ、皆さん覚えておいてほしい。人の好き嫌いを作らんと皆と仲よつしてこの世が終わつたら、死んだ後も皆と仲良うできるような世界に行けることになります。

ええ具合に雨も降らんと、曇り空で暑くないし汗も出ないし、ほんまに良い祖霊祭でございませう。これも、ここに居る皆さんが心の状態が良い人ばかりやからでしょう。(笑)

宗教というのは自分個人の心の修養。そしてまた靈界の人との交流することが幸せになる一番の近道。皆さんは、それを今日の土産に持つて帰つて下さい。

今日の皆さんのご先祖の塔婆、ぎょうさん書いてくれる人も大変やつたらうけれど、私も肉体持つておる人間やから一枚一枚供養するの、やつぱりしんどい。腰も痛いしな。この辺でもう失礼します。ご清聴どうも有難うございました。

(文責・編集部)

こだまことだま

群馬県富岡市 西川 美保

暑中お見舞申し上げます。…中略… 私は生を受けて三十年以上たちますが、この様におだやかな心でいられる事は初めてでございます。大倭を知つたおかげ様で、「生きる」「生かされている」という事が解り始めました。毎日が修行ですが、この上ない愛と感謝に毎日手を合わせ、奈母太加天腹を唱えております。…中略… いつも、ありがとうございます。(6頁の西川弘二さんの義姉)

特集 私と戦争 (中)

「長崎8人兄弟物語」モモタロウとムッコ」抄

長崎市出身の井手泉さんのご厚意で、姪御さんの根本千絵さんのブログ「かんからかんのかあんの」の記事を提供して頂きました。その中から、今回は八人兄弟の長男・井手桃太郎（モモタロウ・大正九年生まれ・平成十九年秋帰幽八十七歳）と、その妻・睦子（ムッコ・昭和二年生まれ）について、敗戦前後のこと、特に長崎原爆当時のことをまとめ、井手泉さんにも補筆してもらいました。詳しくは是非ナマのブログを見て下さい。

徴用・徴兵とモモタロウさん

モモタロウさんは二十四歳の時、昭和十九年六月の末、軍隊に入る。その歳まで徴用を逃れるために学校の美術の先生になっていた。徴用についてモモタロウさんは、「徴用と言って、国家の命令で長崎の地下千メートルの海底炭鉱を掘る仕事に強制的にかり出される。韓国朝鮮からもたくさん連れて来られてね。今日は何十人死んだ。今日は何人死んだって、毎日のように死んでいくわけです。落盤事故だね」と語っている。ムッコさんも「朝鮮の人は大勢使われてたねえ」と言っておられるのを読むと実際にお二人は現場を見られたのだらう。

モモタロウさんは教職に就く前は、父の写真館の仕事を手伝っていたこともある。「当時は毎日のように出征していく兵隊さんたちを撮らなくちゃいけないんで、写真屋さんには忙しかつた。材料も軍部が保障してくれた。ところが、うちの親父は兵隊の写真なんか撮るのはいやだ！って、軍の

命令に従わなかった。それで特高警察や憲兵に呼びつけられ、踏んだり蹴ったりというずい分ひどい目にあわされた。親父は何一つ言わなかったが後でだんだん少しずつわかってきた」と言う。

さて、昭和十九年に徴兵されて軍隊に入ったモモタロウさんは、陸軍司令部直属の暗号兵（写真兵兼務）として宮崎県の都城に配属され、一日八時間の三交替で暗号を解読する。原爆が落とされた日も都城の横穴壕の中で仕事をしていたと言う。原爆投下のこともすぐに暗号で知り、終戦も間近いことをさとした。

モモタロウさんは外地へ征かなかつたので、終戦後は間もなく復員し、昭和二十年から二十三年頃まで、浦上天主堂の廃墟となつた姿や、爆心地付近の様々の情景を撮影した。それらの記録写真は少数しか残っていないが、近く長崎の原爆資料館に納める予定になっている。

八月九日のムッコさんの体験

勤労学徒動員で爆心地から遠い香焼島という所で働いていたムッコさんは、当時十七歳の少女。「十一時頃にピカッと光つたのが見えたの。みんなでなんだろう、いつもと違つて言つてたの。三時頃に家に帰るよう言われ、帰る途中で初めはケガ人が何人かいるだけだったのに、町の方へ行くうちに、黒こげ死体になって。それから、なんにもなくて灰……灰だけ……」

家は爆心地から半径五百メートルの所（城山町）にあった。ムッコさんのお母さんは、大分の親戚に家の荷物を疎開させてもらえよう、九日に頼みに行つて助かつたが、留守番をしていたお姉さんは亡くなつたと言う。「川は水もないのに、いっぱいの人が入つて、防火用水のところへ、みんな逆立ちになつて人が入つたまま死んでいる。水

がないのにね。みんな、そうよ。水を求めて……」ムッコさんは自宅のあつた所に降り着いたが誰もいなかった。その辺には生きた人はいなかったと言う。ただ、医科大学の壁で助かつたが衣服も焼かれて真つ裸の状態になった、大家さんの息子さんに会つたので、自分の作業着を貸してあげた。壁の無かつた人はみんな死んでしまった。

家族には誰にも会えず、「こんなところで暮らしてはいけない」という息子さんの言葉で、その方のおばさんの鳥原の家に行くことにしたが、諫早で汽車が止まり空襲警報が鳴つたので、列車から降ろされ、諫早の中学校でみんな寝たと言う。「そこでも死体だらけ。そこまで辿り着いてもほとんど死んでいく。私は無傷だから歩けるけど、弱つたりケガをした人たちは、『列車が来るぞ』って言うたびに、汽車は止まってもプラットホームがないから、把手を掴むんだけどのれないのよ、ずるずると落とされてね……みんなねえ……それこそその辺は地獄でしたな」

ムッコさんは数日後、両親に会え、半月ほど塚のような所で暮らし相当放射能は浴びてしまつたが、そのあと由布院へ避難して助かつたようだ。しかし、お母さんは入れ替わりに長崎に来た時に黒い雨に当たつて、何ヶ月かで亡くなつたと言つた。千絵さんは、「こんな思い出したくない話を聞いてしまつてごめんさい。ありがとうございませした。（中略）でもおばちゃん最後のつぶやきが気になる」と言う。

ムッコ、「こうやって私らがやらないで来たことを若い人たちがやってくれる。それは大事なことだねえ。でも、言葉で伝えられない何かがあるのではないかと思うわね。しつくり言葉に置き換えられない何か、それは何なのか、と千絵さんは問う。

（文責・李 章根）

「だまことだま」(最終回)

群馬県安中市・西川 弘 二

第3信の

平成21(09)年7月6日

今年に入って、たまに不安定になる位で体調の波はおだやかでしたが、家中から「ガリツカツカツ、ガリガリ」という木を爪で引つかくような音が出始め、妻と娘に「ネズミがいるんかなあ? うるさいねえ」と聞くと、「何も聞こえないよ。こわい事言わないでよ」とあしらわれ、天井裏をのぞいてもうつすらホコリがあるだけで足跡もない。馬場美佐子さんに「あまり良い音ではないですよ」と教えて頂き、気を引き締めて家中に、柏手と奈母太加天腹をし、「何か分らないけれど、私を頼ってきているのですね。傷み、悩み、苦しみ等が解消されますように、大倭の光につながり仲良く暮らしましょう」と念じて過ごしました。

すると雑種のメス犬ハナ(H15年生)に乳ガンが見付かり手術が必要と診断されました。妻に「13万円もかかるのか。給料も減っているし、寿命としてあきらめる?」と声に出して言っていました。妻に「家族でしょ? お金はどうにもなる、やる事はやるの!」と言われ、ハツとしました。あきらめの哲学も幅が広いなあと思いつながら、お金にとらわれている自分を反省しました。手術して4日後に退院してホッと一安心していると、今度はもう1匹の雄犬モモ(雑種・H10年生)が吐血と血便で部屋を汚してぐったりしていました。「臭い! 掃除なくては、面倒だな、しらばっくれて妻にやらせるか」「掃除の修行だ、西川弘二!」「モモだって汚したくてやったんじやない。今日死んでしまつかもしれないのに、犬に怒りをぶつけたって、後々、自分が苦しくなるんだよ。山彦のように善心も悪心も必ず己に帰っ

てくるんだ」と日聖さんの言葉も思い出し心の中で対話しながら、畳2枚を表に出して使い古しの歯ブラシや古着でこすったり、コタツや座布団のカバーを水に流したり、床を拭いたりして、折角なので家中に掃除機をかけて終わりました。

「この家に対しても感謝が足りなかったなあ。犬との縁も大切にしないで。犬がもし寿命で死んだとしても、前に体調不良を犬に替わってもらおうなどという悪念を持った事が、自分の本心とのズレで苦しむんだな」と反省して柏手、奈母太加天腹をしていると、妻が仕事から帰ってきた。

「掃除すると気分いいよなあ」と下手な事を言っただけ、妻に「いつもやれば良いけど。次にすぐ使えるように掃除機のゴミは取り出した? 食器だつてそうでしょう!」と返されてカチン。「このやろう」と出かけたのを、「いけない、いけない」と、掃除して気分が良いのを優先させて「はいっ、分かりました!」と掃除機のフィルターをはずし水洗い。怒りを抑えられると、「掃除機、買い替えるなら何が良いかねえ?」と、妻と対話する楽しみがやってきました。仲良くする種も、ケンカする種も自分でまいているんだと、悟れました。

家の中の「カリカリ」音はなくなり、ハナもモモ一命をとりとめ元気でいます。

近所の家へ、何でだか無性に『おおやまと』新聞と、この土地の事を話したくなって行きました。すると「次男が2階で武将霊を見るので、近い内にお被いみたいな事を頼もうと思っていた」と言うので、桜井節子さんに問い合わせ大倭に聞いてもらおうようになり、結果は「将玄坊さんの墓守をされていた武将さんです」とのこと。3月の月次祭に於いて、中村家の皆さんの心でお給仕の席を

設けて頂きました。「黎明大倭」を歌い終わると石川千鶴子さんに憑依されて、「今日のこの日をお待ち申しております。このような席を設けてお祭りをして頂き、誠に……誠に……誠に感謝を申し上げます」との言葉。一同涙でした。

その後、次男は武将霊を全く見ないとの事です。封じ込めたり被い切つたりする事が当然に思っていました。が、仲良く一緒に暮らす心で、柏手と奈母太加天腹が通用するんだと知り、何だかうれしく感じます。

『おおやまと』新聞の法話に、「お釈迦さんもキリストさんも矢追日聖も、飯を食い糞をして人間欲もあつた」「宗教は、人や金を集める企業ではない」「争つ心や欲をなくして、皆と仲良くして、この世に何ひとつ思ひ残すことなく死んでゆける自分を作る」「鏡と山彦の原理」「足るを知る」等……、今までの考え方をきれいにひっくり返されて、まだ半信半疑ですが、心がおだやかになり豊かにもなりました。

金や物や水や空気や肉体が欲しくて生まれて生きていくのではなく、それらによつて生かされている事を思うと、今まで自然(加美様)に逆らつて怒りを人や物や天気につぶけていたのが、山彦で己にちゃんとかえつてきていたなと実感しています。

これからは、与えられている今に感謝して、妻や妻の両親や先祖を苦しめない心で、霊界の日聖さんにすがつて今を修行して、霊界へ帰つた時に心のままに動ける自分であつて、「法主様、ありがとうございます」と言いたいです。(まだ思い出せない反省すべき事もあるかも。それも修行して気が付くようにしなくてはいけません!)

大倭に縁のある皆様、並びに編集部の皆様、ありがとうございました!

寸 莎

第86回

石津和子さん



生と死に出会う

今回の「寸莎」に登場してもらうのは、大倭病院の開院時からの看護師で、現在は非常勤で医療相談係も務めている石津和子さんである。石津さんとは、これまで軽い雑談しか交したことがなかったため、最晩年の法主様の看病のことなども含めて、興味深くお話しを伺った。

石津さんは昭和十九年生まれであるが（本人が公表しているとのことだったので書いたのだが）、とてもそうは見えない若々しさである。鳥根県益田市で過ごした子供時代は、「中学までは家にテレビもなく、外でドッチボールや縄跳びをするなど素朴な時代だった」と当時をなつかしむ。「弟がおとなしくて自分が活発だったので、ケンをしかけられた弟をかばったりしていた。母親に、男と女が逆だったらよかったのに、

と言われた記憶がある」と笑う。

「中学時代に成績がまあまあだったので、受験校の県立益田高校に進学する。ところが、大学受験に失敗して、保健所に勤めていた父のすすめもあって、すべり止めに受けた松江赤十字病院高等看護学校に合格して、看護師への道を歩むことになる。三年間で卒業した後、益田の赤十字病院で働くことになった。

石津さんに大きな影響を及ぼした若い頃の思い出がある。「父が、年寄りは大切に、という姿勢を真似ていて、同居していた祖母にとてもやさしく接していた。その思いは他の親類にも伝播して、祖母の体が弱った時に、父の兄弟の三夫婦が交代で泊り込んで看病に当たってくれた。その心のこもった協力の姿は石津さんに強い印象を残したようだ。

昭和四十四年に、「お見合いから結婚のわずか一カ月の間にデートを

一回しただけで、浜田市の出雲大社分院で結婚式を挙げた。ご主人の仕事の関係で奈良に移り住み、二人の女の子の子宝にも恵まれ、十五年間主婦業に専念した。

その後、開業医の手伝いを三年務めてから、開院前の看護師募集をしていた大倭病院の面接にいったら、「初代院長の浜田先生の同級生が松江赤十字病院で勤務していたことがわかり、話しが弾んで、就職。

大倭病院総長であつた法主様に対してはいろいろ思い出がある。「最初、近寄りがない存在だと感じていた」が、法主様が入院した際に接触することが多くなり、「ささく話に話して聞いてもらいに訪室するようになった」。患者としての法主様は、「とても素直な患者だった」という。

法主様が病院から瑞光院に戻って療養していた時にも、看護師も交代で泊り込みの看病に当たった。「総長さんが亡くなる前の晩も私が当番でついていて疲をとったりしていた。でもバイタル（体温、血圧、脈拍）も通常のまま、まさかその日に帰幽されるとは思わなかった」という。当日、石津さんの外出先への連絡が遅れ、「それ以来、ケイタイを持つようにした」とのことである。法主様に先立って、大倭殖産の柴

地則之社長が亡くなった時も当直で、「夜の九時頃に柴地さんが具合が悪いと来院されて、当直医が診てすぐに救急救命センターに私も付き添っていった。あまりに衝撃的なことで、今でも脳裏を去らない」としみりと語る。

若くして亡くなった人といえ、当時大倭殖産の土木部長だった福田努さんがいるが、「末期ガンだった福田さんが、県立奈良病院に転院する時も同行して行って、何とも言えない気持ちになった」のを憶えている。矢追鈴月さんが大倭病院に入院中に、何人かと連れ立って旅行に出かけようと、旅支度を終えた朝に急逝した出来事も忘れがたいという。

「鈴月力アさんのいさぎよさとさえる言える帰幽の姿には、むしろ見習いたいと感じるものがあった」と思いをかみしめる。

病院で仕事をしていると、こうした生と死のさまざまな姿に接して心が磨かれることがあるのだろう。

石津さんの趣味はと聞くと、「専業主婦時代にはフランス刺繍やアトフラワーなどしたが、今は主人とたまにゴルフをするくらいなので、これから趣味を見つけていきたい」と意欲的である。「健康に気をつけて元気に」がこれからの目標だという。

（聞き手 岸田 哲）

あじさい日誌

の音頭で午後7時半から10時半までおどりの輪。昨年にも増して賑やかな人出でした。

8月11日 奇稲田姫を訪ねて大倭神宮に行ってきたという社領英(西宮市)・寺井敏子(大阪市)・宮崎和子(大津市)さんが来邑。突然の大雨に足を止められ拝殿でゆっくりされました。

8月15日 大倭神宮で立教開宣記念祭が行われました。

8月17日 8月前半、昇ちゃんは大倭病院へ2回ほど点滴に。よく効いたか人一倍元々！

8月23日 大倭大本宮月次祭。この日は昭和38年8月23日の法話をお聞きしました。

8月24日 湯尾由美子さん(東大阪市)が来邑されました。

8月29日 弥栄おどりが行われました。午前8時からやぐら作り、模擬店の準備。途中、土煙を静めるようなお湿り。音丸会

8月30日 午前8時から後片付けをして、弥栄おどりは無事終了しました。お疲れさん！

9月2日 大祭を前に、朝から有志の方々により餅搗きや掃除が行われました。

9月3日 東光大祭並びに祖霊祭。お参りの方が拝殿をあふれ、久しぶりの挨拶を交わしたりビデオで法主様の姿やお声に接している内に、奥津齋庭で供養(「写真」をして頂き、それぞ

の元に終木が返されました。夕方から大倭会館で和やかに直会。曇って過ごしやすい日だったが、月は出ませんでした。

9月6日 大倭神宮月次祭。この日は法主さんの先妻妙月があなたのご命日です。

夜、大倭会館で邑倭の会

9月2日 茂毛路園出火想定で合同防災訓練が行われました。

(菅原園)

8月29日 奈良養護学校の夏祭に参加、久しぶりに会う同級生と共に一時を過ごしました。

(須加宮寮)

8月29日 弥栄踊りに42名の住死者が参加しました。

(長曾根寮)

8月16日 たこ焼、クレール、射的、金魚すくい等、4階フロアに縁日の屋台が並びました。

8月24日(デイサービス) 新たに講師のボランティアさんが来てくれました。

(茂毛路園)

8月13日 「ピアノでうたおう」。終戦記念日にちなみ、戦後すぐに出来た曲を歌い、当時の思い出を語り合いました。



第21回大倭会文化講演会

(共催：NPO法人むすびの家)

日時：平成21年11月8日(日)

午後2時より

場所：大倭紫陽花邑 拝殿

(近鉄学園前南口より赤膚山行きバスで国際ゴルフ場下車、徒歩すぐ)

講師：矢部 顕 さん

タイトル：モラ一つのアメリカ

—馬車で暮らす人々—
—メノナイト・アーミッシュの宗教共同体—

講師プロフィール

FIWC(フレンズ国際労働キャンプ)関西委員会が紫陽花邑の中に建設した交流(むすび)の家のワークキャンプに、学生時代4年間、熱中。竣工式(1967年7月)当時は委員長。卒業後、草創期の大倭印刷で仕事、技術を身に付け工場の責任者。のちラボ教育センターに転職して現在に至る。業務で短期渡米10回ほど。その内4回はペンシルバニア州でメノナイトの家庭に滞在。

※終了後、大倭会館にて懇親会(参加費1,000円)

■問合せ：TEL 0742-44-0015 (大倭会)

TEL 0742-44-0776 (むすびの家)

(八重垣園)

投句箱より、「二つ三つ童女のしぐさ盆踊り」

俳句の風物 上田森彦(99歳)

秋口のすはやと思ふ通り雨 飯田蛇笏

田んぼ通信

稲刈りと棹掛け

おかげさまで稲はとも元気で。収穫の秋、どうぞ皆さまふるつてご参加下さい。

10月4日(日)

午前9:30

*服装 長袖・長ズボン・長靴。帽子とタオルは各自用意下さい。軍手と鎌は用意してあります。

*昼食・飲み物 ご用意します。(持込み歓迎)

連絡先 TEL 0742-41-4615 (玄徳院)

警報が出て、朝から重い空模様と生暖かい風。昼過ぎ急にザアツと降りだし、すわ来たかと思つたが、通り雨だった。どこぞで虫が啼いて先づ裏町を秋にする(自由律) 森彦

あんない

* 月次祭(大倭神宮)

10月6日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

* 大倭会主催第四八九回禊会

10月11日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。(11月の禊会は文化講演会となります)

* 月次祭(大倭神宮)

10月15日(木) 午後2時より大倭神宮にて。

* 月次祭(大倭大本宮)

10月23日(金) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

第304回 大倭会文化行事

秋の一泊旅行のご案内

—源氏物語の世界と遊覧船による 明石大橋回遊—

皆さん、山と海に出かけます。お問い合わせまでご参加ください。

日時：平成21年10月25日(日) ~26日(月)

行き先：(全行程バスで)

(1日目) 伊和神社・書写山円教寺・広峯神社

(2日目) 須磨寺・明石魚棚・神戸湾クルーズ

お泊り：須磨の静かなお宿 寿楼

電話 078-731-4351

費用：一人2万6千円

申込：10月8日までに世話人へ。

世話人：湯浅芳郎 090-6987-5847

田んぼ通信

稲刈りと棹掛け

おかげさまで稲はとも元気で。収穫の秋、どうぞ皆さまふるつてご参加下さい。

10月4日(日)

午前9:30

*服装 長袖・長ズボン・長靴。帽子とタオルは各自用意下さい。軍手と鎌は用意してあります。

*昼食・飲み物 ご用意します。(持込み歓迎)

連絡先 TEL 0742-41-4615 (玄徳院)

あんない

警報が出て、朝から重い空模様と生暖かい風。昼過ぎ急にザアツと降りだし、すわ来たかと思つたが、通り雨だった。どこぞで虫が啼いて先づ裏町を秋にする(自由律) 森彦